

ゲイの息子/レズビアンの子を子に持つ親として

新しい理解への道が開かれた。ゲイの子供たちの人間性が尊重されるよう、世間の意識改善、理解ある環境作りに我々は貢献を惜しまない。人々が知識を分かち合い、恐れにもめげず、手を差し伸べ、人間についてもっと理解を深めていくことを我々は望んで止まない。



人間の性の傾向がどのように決定されるのかは知られていない。過去20年間に渡り、ゲイやレズビアンを子に持つ何千という家族と色々な話をした結果、ピー・フラッグ (P-F L A G) では次のような結論に達した。

- * 同性愛とは人となりに根差したもので、なるとか、ならないとか自分の意志で選択できるものではない。人を好きになるという感情を選ぶことはできない。唯一の選択といえば自分の性の傾向を正直に表に出すか、隠しておくかということだけである。
- * レズビアンやゲイの人が性の傾向を隠さなくても安心な世の中になれば、その分だけ不幸な結婚を免れることができる。
- * ゲイの子供達はかなり幼い頃から自分の性の傾向に気づいている事が多い。
- * 人から影響を受けたり、教えられたりしてゲイになった子供はいない。
- * 学校または他の場所で同性愛に『うつる』とか『勧誘されるのでは』という家族の恐れには何ひとつ科学的な根拠がない。
- * ゲイの人が異性愛者になろうと努力をして成功した例は一つもない。米医学協会では性の傾向を差別なく受け入れるよう呼びかけている。
- * 世の中には同性に惹かれるのが自然な人もいるというのが現実である。我々のゲイまたはレズビアンの子供達を今、社会が認識し、受け入れる時期が来ているのである。

およそ四世帯のうち一世帯にはゲイ、レズビアン、バイセクシュアルのファミリーメンバーがいる。我々のレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルの子供達も、誠

実な親子愛、兄弟愛で結ばれた両親、祖父母、兄弟姉妹、伯父伯母、甥、姪がいるのである。従って、ゲイだからということで家族がそのメンバーを受け入れないとするれば、それは家族・親戚全体の悲劇となるわけである。全米に網羅されたピー・フラッグのホットラインでは、同様の経験を持つ親が質問や心配事を安心して分かち合える絶好の機会を提供している。こういったホットラインやピー・フラッグのミーティングが家族とそのゲイの子供達とをつなぐ重要な掛け橋となり、家族が一生離れ離れになったり、生涯傷ついたりするのを未然にふせぐことも稀ではない。

レズビアンやゲイのカップルにも立派に子供を育てることができる。ゲイやレズビアンを両親に持つ子供達は心理的、社会的、性的な発育上、異性愛の両親を持つ子供達と何ら変わりがない。ゲイの男性、レズビアンの女性が子供の虐待に関わることは稀である。アメリカでは子供に対する性的虐待事件の90%は異性愛の男性(父親、義父、祖父、伯父、叔父、内縁の夫など)が加害者である。

このパンフレットで異性愛者とは自然に異性に惹かれる人、ゲイ/レズビアン/同性愛者とは自然に同性に惹かれる人のことを意味する。我々の子供達の間では同性愛者というよりゲイまたはレズビアンという名称の方が好まれる。これはアフリカ系米人が黒人(ニグロ)より黒人という名称を好み、日系、ポーランド系、イタリア系米人などが、人を傷つけるような悪い言葉でよばれたくないのと同じである。